6/14

「大学弾圧立法」粉砕で全共斗と統一行動を組むことは何を意味するか！

大阪市大大学院民青委

6・14

今、政府自民党によって大学弾圧立法の法制化が企てられている。この時、一部の人々から「大学弾圧立法粉砕のためには、このスローガンで一致するものは、全て統一行動に参加すべきである」という主張がなされている。確かに、一般的にはこの主張は正しい。だが、全共斗・トロツキスト一派ともを組んで統一行動に彼らを参加させるということは正しいであろうか？

われわれは、全共斗・トロツキスト一派を統一行動に参加させることは断じて誤っていると考える。

なぜなら、統一行動とは民主勢力内部における行動の統一であり、不一致点は一時留保して一致点で行動することである。われわれは、全共斗・トロツキスト一派を決して民主勢力の一部として考えてはならない。彼らは民主勢力の敵対者である。課題の一致で彼らとの統一行動を考えることは、極右団体が「佐藤自民党内閣打倒」という名ら、彼らとも統一行動を組むべきであるという考えに他ならない。

問題は全共斗・トロツキスト一派の本質が一体何であるかということである。

「来る全国学園闘争に大きくはく登場し、全国の学生に現在の学園闘争の要求実現の担い手であり、全学生の要求を掲げて東大闘争を先頭に立ち、全共斗・トロツキスト一派の目的は、学生の要求を叫びながら、学生の利益を守り抜く神の如く登場した。」

「